

区 分	専門基礎科目	担当教員	山田 陽子			
授業科目	社会学基礎 I					授業形態
英 訳	Invitation to Sociology I					単独
配当年次	1年次 前期	必選別	必修	単位数	2 単位	
<b>【授業の目的】</b> 社会学の基礎について学び、自らの生きる社会について考える。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会学とはどのような学問かについて理解する。社会学的なモノの見方を学ぶ。						
<b>【授業の概要】</b> 社会学の基礎について講義する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 自己と他者① 第 2回 自己と他者② 第 3回 自己と他者③ 第 4回 自己と他者④ 第 5回 コミュニケーション① 第 6回 コミュニケーション② 第 7回 コミュニケーション③ 第 8回 家族① 第 9回 家族② 第 10回 家族③ 第 11回 コミュニティ① 第 12回 コミュニティ② 第 13回 産業社会と脱産業社会 第 14回 消費社会 第 15回 情報社会とメディア						
<b>【テキスト】</b> 工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編『基礎ゼミ 社会学』世界思想社、(2017年)						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で適宜指示する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 講義期間中の課題の提出状況と (60%)、レポート (40%) によって評価を行う。						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	専門基礎科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	近現代史 I					授業形態
英 訳	Modern History I					単独
配当年次	1年次	前期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 現代日本の置かれている状況を正しく理解するために必要な、日本の近代史および現代史に関する基礎知識を得ることを基本的な目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 日本の近代史および現代史に関する基礎知識を身につけることができる。 2. 日本近現代史をより深く理解することで、現代日本または国際社会の諸問題を、歴史の深みからあらためて見直し、考えて生きていく上での教養とすることができる。						
<b>【授業の概要】</b> 本講義は、現代日本の国家・社会または国際社会を意識しながら、日本の近現代史を学習する。内容は、近代国家の成立から、第2次世界大戦前までである。講義では、関連するドキュメンタリー番組等を活用し、受講生が具体的に講義テーマを理解できるようにしたい。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 近代までの流れ 第 3回 開国—社会変動の序幕 第 4回 明治維新—改革と近代文化 第 5回 自由民権運動—国家路線の選択 第 6回 日清戦争—国際関係の変動 第 7回 日露戦争 第 8回 植民地支配のはじまり 第 9回 産業の発達と社会の変動 第10回 近代国家の成立のまとめ 第11回 第1次世界大戦とロシア革命の影響 第12回 ワシントン体制と大正デモクラシー 第13回 世界恐慌と軍縮破綻への道 第14回 大陸への膨張と政党政治の後退 第15回 まとめと到達目標の確認						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> レポート提出 (40%)、小テスト (30%)、授業への取り組み (30%) で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 授業スケジュールは、回が前後したりすることもある。						

区 分	専門基礎科目	担当教員	山田 陽子		
授業科目	社会学基礎Ⅱ				授業形態
英 訳	Invitation to Sociology II				単独
配当年次	1年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 社会学の基礎について学び、自らの生きる社会について考える。					
<b>【授業の到達目標】</b> 社会学とはどのような学問かについて理解する。社会学的なモノの見方を学ぶ。					
<b>【授業の概要】</b> 社会学の基礎について講義する。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。					
<b>【授業計画】</b> 第 1回 リスク社会 第 2回 貧困、格差、不平等① 第 3回 貧困、格差、不平等② 第 4回 環境、科学技術 第 5回 医療① 第 6回 医療② 第 7回 医療③ 第 8回 社会問題① 第 9回 社会問題② 第 10回 社会問題③ 第 11回 政治 第 12回 グローバリゼーション、エスニシティ 第 13回 ジェンダー、セクシュアリティ 第 14回 新しい社会運動、NPO・NGO 第 15回 福祉社会					
<b>【テキスト】</b> 工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編『基礎ゼミ 社会学』世界思想社、(2017年)					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で適宜指示する。					
<b>【成績評価の方法等】</b> 講義中の課題提出状況&出来 (60%) とレポート (40%) によって評価を行う。					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	専門基礎科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	近現代史Ⅱ					授業形態
英 訳	Modern History Ⅱ					単独
配当年次	1年次	後期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 現代日本の置かれている状況を正しく理解するために必要な、日本の近代史および現代史に関する基礎知識を得ることを基本的な目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 日本の近代史および現代史に関する基礎知識を身につけることができる。 2. 日本近現代史をより深く理解することで、現代日本または国際社会の諸問題を、歴史の深みからあらためて見直し、考えて生きていく上での教養とすることができる。						
<b>【授業の概要】</b> 本講義は、現代日本の国家・社会または国際社会を意識しながら、日本の近現代史を学習する。内容は、第2次世界大戦以降からである。講義では、関連するドキュメンタリー番組等を活用し、受講生が具体的に講義テーマを理解できるようにしたい。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 日中戦争と戦時体制の始まり 第 3回 占領地と植民地支配 第 4回 第2次世界大戦と日本の武力南進 第 5回 開戦後の国内支配体制の強化 第 6回 中国戦線の日本軍—日中戦争とアジア・太平洋戦争 第 7回 大東亜共栄圏というスローガンの下で 第 8回 戦局の転換 第 9回 敗戦 第10回 戦後改革から占領政策の転換へ 第11回 サンフランシスコ講和会議と日本の戦後処理 第12回 日米安保体制と高度成長 第13回 激動するアジアと世界 第14回 21世紀を展望して—歴史の現段階 第15回 まとめと到達目標の確認						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> レポート提出 (40%)、小テスト (30%)、授業への取り組み (30%) で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 授業スケジュールは、回が前後したりすることもある。						

区 分	専門基礎科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会と情報					授業形態
英 訳	ICT and life					単独
配当年次	1年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 今日、社会にあふれる情報の実態、機能、特徴について多面的に学修し、情報の活用についての専門的学修を進めて行くための見識を深め、基盤を育成する。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会と情報との係わりについての実情、機能、特徴について学び、応用可能な知識を習得する。						
<b>【授業の概要】</b> 社会と情報との係わりについて認識を深め、情報化社会に期待される専門家の役割について見識を深める。その過程においては、視聴覚教材を多用して関連分野のトピックスを多く提示する。トピックスの重要度によって授業計画の一部を変更することがある。その間、いくつかの課題について研究し、結果をレポートにまとめる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノートや配布資料を整理し、前回の授業内容をよく理解しておくこと。不明点をチェックしておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 講義の進め方と学習目標の提示 第 2回 メディアと男女像 第 3回 課題研究：インターネットの男女像 第 4回 メディアと「物語」の世界 第 5回 課題研究：時代とメディア 第 6回 メディアが伝える「真実」 (1) メディアの発展とメディアが伝える真実 第 7回 メディアが伝える「真実」 (2) 虚報、誤報、客観報道論 第 8回 課題研究：メディアの光と陰 第 9回 情報源としてのインターネット 第10回 課題研究：情報検索 第11回 情報ベンチャー 第12回 課題研究：ベンチャービジネス 第13回 情報化と現代社会 第14回 課題研究：情報化社会の未来と自分の未来 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 特に定めない。担当者が配布資料を作成し、適宜配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 藤代裕之 編著『ソーシャルメディア論：つながりを再設計する』青弓社、2015年。 白石義郎編『メディアと情報が変わる現代社会—メディアと情報化の過去、現在、未来』九州大学出版会、2002年。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 中間レポート (25%)、小レポート (15%)、期末レポート (60%) から判断する。						
<b>【履修要件等】</b> 本科目は情報デザイン学科の必修科目であり、教職科目 (情報) にも該当する。						

区 分	専門基礎科目	担当教員	山田 陽子		
授業科目	社会学理論 I				授業形態
英 訳	Theory of Sociology I				単独
配当年次	2年次 前期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 社会学の諸理論について学び、自らの生きる社会について考える。					
<b>【授業の到達目標】</b> 社会学の理論や学説について理解する。					
<b>【授業の概要】</b> 社会学の理論や学説について講義する。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。					
<b>【授業計画】</b> 第 1回 自己と社会① 第 2回 自己と社会② 第 3回 自己と社会③ 第 4回 自己と社会④ 第 5回 自己と社会⑤ 第 6回 自己と社会⑥ 第 7回 自己と社会⑦ 第 8回 自己と社会⑧ 第 9回 集団① 第10回 集団② 第11回 集団③ 第12回 集団④ 第13回 集団⑤ 第14回 集団⑥ 第15回 集団⑦					
<b>【テキスト】</b> 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編『社会学の力』有斐閣 (2017年)					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で適宜指示する。					
<b>【成績評価の方法等】</b> 講義期間中の課題の提出状況と (60%)、レポート (40%) によって評価を行う。					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	専門基礎科目	担当教員	山田 陽子		
授業科目	社会学理論Ⅱ				授業形態
英 訳	Theory of Sociology II				単独
配当年次	2年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 社会学の諸理論について学び、自らの生きる社会について考える。					
<b>【授業の到達目標】</b> 社会学の理論や学説について理解する。					
<b>【授業の概要】</b> 社会学の理論や学説について講義する。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。					
<b>【授業計画】</b> 第 1回 規範・制度 第 2回 構造・機能 第 3回 階級・階層 第 4回 大衆社会、消費社会 第 5回 公共性、市民社会 第 6回 国民国家、ナショナリズム 第 7回 社会統合と自殺 第 8回 社会問題とラベリング、予言の自己成就 第 9回 医療化と精神・身体 第10回 近代化、世俗化、機能分化 第11回 再帰的近代化 第12回 リスク社会、個人化 第13回 社会学の歴史① 第14回 社会学の歴史② 第15回 まとめ					
<b>【テキスト】</b> 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編『社会学の力』有斐閣 (2017年)					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で適宜指示する。					
<b>【成績評価の方法等】</b> 講義中の課題提出状況&出来 (50%) とレポート (50%) によって評価を行う。					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	専門基礎科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	コミュニケーション文化論					授業形態
英 訳	Invitation to Media and Cultural Studies					講義
配当年次	2 年次	後期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> この授業では、私たちの対面的コミュニケーションに注目しながら、現代社会に生きる私たちの現実感覚や社会意識の特徴を探求することを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会的コミュニケーション論、メディア論の基本的概念について学修し、基本的な知識を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> 本授業では、人びとの対面的なコミュニケーションの諸相を手がかりにしなが、ら、人びとの社会関係や社会意識をどのように編成しているのかを検討する。授業は講義形式で行う。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノート・配付プリントを整理し授業内容を理解しておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 コミュニケーションと「わたし」の意識 第 3 回 コミュニケーションと「他者」 第 4 回 コミュニケーションの病 (1) 第 5 回 コミュニケーションの病 (2) 第 6 回 「嗜癖」と共依存 第 7 回 親密性の変容 第 8 回 「感情」と社会 第 9 回 「記憶」という経験 第 10 回 行為と演技 第 11 回 コミュニケーションと現実感覚 第 12 回 社会的ネットワーク 第 13 回 現代社会におけるコミュニケーションの特徴 第 14 回 文化研究と社会学 第 15 回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 野沢慎司 編・監訳『リーディングスネットワーク論：家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房、2006年。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 期末レポート(70%程度)、授業中の小レポート(30%程度)などをもとに、授業内容の理解度および応用力という観点から評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 人間のコミュニケーションについてやや抽象度の高い内容になる。						



区 分	専門基礎科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	応用社会学 I					授業形態
英 訳	Applied Sociology I					単独
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 2年次までの社会学の学習をベースとして、社会学的視点をより広範に応用することにより、様々な社会事象や社会問題について考察を深めることを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会学やその近接領域の理論や手法を学ぶことで、具体的な社会事象や社会問題を分析することができる能力を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> カルチュラル・スタディーズやポスト・コロニアリズムの理論や視点を理解し、また戦争・戦後問題、開発・援助問題などについて学ぶ。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 配布資料などをもとに、前回の授業の内容をしっかりと復習して次の授業に臨むこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 カルチュラル・スタディーズ① 第 3回 カルチュラル・スタディーズ② 第 4回 カルチュラル・スタディーズ③ 第 5回 ポスト・コロニアリズム① 第 6回 ポスト・コロニアリズム② 第 7回 ポスト・コロニアリズム③ 第 8回 中間まとめ 第 9回 開発・援助について考える① 第10回 開発・援助について考える② 第11回 ディアスポラと先住民について考える① 第12回 ディアスポラと先住民について考える② 第13回 日本とアジアについて考える① 第14回 日本とアジアについて考える② 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 本橋哲也『ポスト・コロニアリズム』岩波新書 松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中のレポート20%、中間試験40%、学期末のレポート40%						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	専門基礎科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	応用社会学Ⅱ					授業形態
英 訳	Applied Sociology II					単独
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 2年次までの社会学の学習をベースとして、社会学的視点をより広範に応用することにより、様々な社会事象や社会問題について考察を深めることを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会学の理論や実証の手法を用いて、具体的な社会事象や社会問題を分析することができる能力を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> 社会学や他の学問領域において進められたネットワーク研究について学ぶとともに、その理論や分析手法を用いて様々な社会事象や社会問題について考察する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 配布資料などをもとに、前回の授業の内容をしっかりと復習して次の授業に臨むこと						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 ネットワーク論の基礎 (1) 第 3回 ネットワーク論の基礎 (2) 第 4回 ソシオセントリック・ネットワーク 第 5回 エゴセントリック・ネットワーク 第 6回 スモールワールドと弱い紐帯の強さ 第 7回 スケールフリーとハブ 第 8回 社会関係資本 第 9回 中間まとめ 第10回 職場とネットワーク 第11回 家族役割とネットワーク 第12回 都市化とネットワーク 第13回 社会運動とネットワーク 第14回 社会意識とネットワーク 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 安田雪『「つながり」を突き止めろ—入門！ネットワーク・サイエンス』光文社新書 安田雪『パーソナルネットワーク—人のつながりがもたらすもの』新曜社						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中のレポート20%、中間試験40%、学期末のレポート40%						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	専門科目—専門基礎科目	担当教員	竹元雅彦・藤本風明		
授業科目	資格A				授業形態
英 訳	Challenging License A				複数
配当年次	1～4年次	必選別	選択	単位数	2単位
<p><b>【授業の目的】</b>          大学卒業後に就く仕事の中には、資格の取得が要件として求められるものもあれば、資格を有していることが就職活動の際に大きなアピール点となるものもある。現代社会学科では資格の取得を奨励しており、この科目は資格の取得に向けた支援を行うことが目的としている。</p>					
<p><b>【授業の到達目標】</b>          現代社会学科が指定した資格の取得を到達目標とする。</p>					
<p><b>【授業の概要】</b>          社会に出てから役に立つ様々な資格について、概要や取得方法、試験内容、試験対策について幅広く講義や実習などを行う。</p>					
<p><b>【準備学習(予習・復習)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格の概要や試験内容などについてよく理解しておくとともに、不明点は質問すること</li> <li>・実習などについては、準備を欠かさず、次の実習のために反省点などをまとめておくこと</li> </ul>					
<p><b>【授業計画】</b>          この科目では、次の資格の取得を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員初任者研修</li> </ul> <p>その他の資格も単位認定することがある。</p>					
<p><b>【テキスト】</b>          資格ごとに随時指定する。</p>					
<p><b>【参考書・参考資料等】</b>          資格ごとに随時指定する。</p>					
<p><b>【成績評価の方法等】</b>          資格の取得の後、委員会等に諮り単位認定を行う。</p>					
<p><b>【履修要件等】</b></p>					

区 分	専門科目—専門基礎科目	担当教員	竹元雅彦・藤本風明		
授業科目	資格B				授業形態
英 訳	Challenging License B				複数
配当年次	1～4年次	必選別	選択	単位数	1単位
<p><b>【授業の目的】</b>          大学卒業後に就く仕事の中には、資格の取得が要件として求められるものもあれば、資格を有していることが就職活動の際に大きなアピール点となるものもある。現代社会学科では資格の取得を奨励しており、この科目は資格の取得に向けた支援を行うことが目的としている。</p>					
<p><b>【授業の到達目標】</b>          現代社会学科が指定した資格の取得を到達目標とする。</p>					
<p><b>【授業の概要】</b>          社会に出てから役に立つ様々な資格について、概要や取得方法、試験内容、試験対策について幅広く講義や実習などを行う。</p>					
<p><b>【準備学習(予習・復習)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格の概要や試験内容などについてよく理解しておくとともに、不明点は質問すること</li> <li>・実習などについては、準備を欠かさず、次の実習のために反省点などをまとめておくこと</li> </ul>					
<p><b>【授業計画】</b>          この科目では、次の資格の取得を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス接客検定2級</li> </ul> <p>その他の資格も単位認定することがある。</p>					
<p><b>【テキスト】</b>          資格ごとに随時指定する。</p>					
<p><b>【参考書・参考資料等】</b>          資格ごとに随時指定する。</p>					
<p><b>【成績評価の方法等】</b>          資格の取得の後、委員会等に諮り単位認定を行う。</p>					
<p><b>【履修要件等】</b></p>					